

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

信仰の高嶺をめざして

日本基督教団 東大阪教会

牧師 脇田 眞一



人の生き方にはいろいろあるが、自分は何を目的に生きるかと尋ね求める人に対して、聖書は、「真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な

基礎を築くように」(1テモテ 6:19) と勧めている。更に、「わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである」(ヨハネ 6:40) と教えている。

私の最大の問題は死の問題を解決することです。復活ということがどうしても信じられず、信じようと努力したが、信じられず、信仰を深めたいと熱心に教会の礼拝や外部の特別集会にも出席した。信仰の書物をたくさん読んだ。しかし、信仰に力がなく、信仰がいつもグラグラして話し声も小さく、いつもビクビクしていた。何故いつまで経ってもこのような信仰状態であるのかと自分が情けなかった。受洗後 30 年も経っても信仰は一向に進まなかった。ある時、その信仰の進まない嘆きを信仰の恩師に訴えた。恩師はほほえみながら「あなたのご馳走を舌の上に乗せて転がし、ちょっと味わって、プツと口から外に吐き出して捨て、ご馳走を喉から飲み込んで、胃の方に送らない。それでせつかくのご馳走もエネルギー(力)にならない。喉から飲み込んで胃へ送ると、体のエネルギーになる。あんたは首から上の頭だけの信仰だから力がないのは当然です。み言葉を聴いて、従う。すなわち、御言葉を実行するのです。そうすれば、いつの間にか力が出て来ます」と言わ

れた。

この恩師の言葉を聴いて、私は問題に遭遇するたびに、神に祈り、御言葉をいただき、これは神の御言葉であるから、損をしても得をしても御言葉に従うと決断して、御言葉に聴き従うことにした。すなわち実行することにした。何か月かして、その結果が表れたのを見た時、「神は生きている」と全身全霊で言わざるを得ないことを何度も体験させていただいた。このような体験を通して腹の底から大声で神の御業を讃美した。「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである」(マタイ 7:21) にある通りである。また、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」(ヨハネ 6:54) にある通り、御言葉を食べている(実行する)うちに永遠の命が育ち、復活を心から信じることができるようになった。御言葉に聴き従い、実践している間に自分の罪がはっきり分かってきた。そこで、神に心から自分の罪を詫言、悔い改めた。すると、「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。」(1ペトロ 1:8~9)。この御言葉を体験させていただける恵みに与った。



霊想 マリン病院でのアシュラム

日本バプテスト連盟 福岡南キリスト教会

牧師 有吉 光寛



「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

ローマの信徒への手紙 10 章 9 節

私が初めてアシュラム

の集いに参加したのは 40 年前、30 代の後半でした。私が西南学院大学の神学部を卒業して、鳥飼バプテスト教会に転会し鍋倉勲牧師に仕えた時です。鍋倉牧師に連れられて初参加しました。鍋倉牧師はスタンレー・ジョーンズ先生の日本伝道旅行に「博士の鞆持ち」として通訳の働きをされたことをいつも嬉しそうに話しておられました。

当時のアシュラムの会場は福岡市城南区にある福岡大学の南側の森の中にあったカトリックの「黙想の家」でした。その後「黙想の家」は宗像に移転し、そこを会場にして九州アシュラムは長く開催されました。しかしその「黙想の家」も 2 年ほど前、閉鎖されてしまいました。今、新しい会場を九州アシュラムの代表者岡山敦彦牧師が苦労して探され、次回からは新しい会場で開かれることになっています。コロナの影響で 2 年間、開かれなままです。心待ちにしています。

私は仕事であるファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）で、子どもたち 5 名と生活を共にしています。

昨年 8 月、子ども一人が通っていた放課後デイサービス施設でコロナのクラスターが発生し、その子も感染してしまいました。その後、ホームでその子と一緒に遊んだもう一人にもうつりました。私と、もう一人の子どもたちの食事や身の回りのお世話をしていたスタッフの 2 人が急に高い熱を出し、病院での検査でコロナ陽性と判明しました。私は、高齢で酸素濃度が低かったため保健所からタクシーが廻され、マリン病院に入院し、もう一人のスタッフはホテル療養となりました。

あと 3 人の子どものうち、1 名は夏休みで実家に帰省中、もう一人は私どもと懇意にしている家族が遠方の果樹園がある実家に一緒に連れて行ってきて夏休みの間、帰省していたので感染を免れました。感染した子ども 2 人は、それぞれの

部屋に隔離して自宅療養となり、一人だけ元気で残った子と、3 人を家内が世話することになりました。隔離が解除されるまで 10 日間を要しました。

私は、病院で肺の写真を CT スキャンで撮りましたが異常はなかったようで、デカドロンという錠剤が与えられ 3 日後には平熱に落ち着きました。毎朝の看護師の訪問の様子は、テレビで見ていたのと同じ完全防護服姿で、熱と酸素測定をして、「食べていますか？ 胸苦しさはありませんか？」と尋ねました。そして、さっとカーテンを閉めると退室していきました。何日かして、看護師が退出する時、身に着けている防護服をその都度脱ぎ捨てていたことを知りました。出口近くに置いてある段ボール箱に幾つもの防護服が詰め込まれているのを見つけたからです。「そうか、自分は今大騒ぎになっているコロナの患者だった！」と自覚した次第です。病室から出ることは禁止、一日 3 回の食事の配膳と食器の片付けはドアの外で受け渡しをして顔を合わせません。主治医と顔を合わせたのは、入院時と、「明日退院です！」との知らせを受けた時の 2 回だけでした。身につけられた幾つかのセンサーは看護センターでのモニターチェックのため、一度だけモニターの数値がおかしいと看護師が入室して調べるとセンサーが外れていたこともありました。

さて、初めての幽閉されたような入院でどのようにして過ごすか？ また何日間の入院になるのか分からない不安の中で、いかにして過ごすかが私の課題でした。

- ① 三食は完食すること。
- ② 部屋の中で一日 1000 歩以上歩くこと。
- ③ 詩篇 23 篇を暗唱すること。
- ④ エリヤの信仰に倣って（ケリテの川のほとりに身を隠せ！）神様が必ず養って下さると信じること。

以上が私の入院中の課題でした。

神様はマリン(海)のほとりの病院に私を隠され、このような体験をして養われたのではないかと思います。入院生活の 9 日目に、主治医の先生が入室され、明日 10 日目に退院と告げられました。「ハレルヤ！」と思わず主治医に手を合わせて「ありがとうございます」と感謝しました。

賀川豊彦牧師の「今も、あのエリヤのカラスが日本の空を飛んでいる」との名言を思い起こしました。

第 53 回城北アシュラム報告

日本基督教団 新宿西教会 川村 秀夫

コロナ・オミクロン変異株が猛威を振るっている中、予防対策に徹して 2 月 11 日に第 53 回城北アシュラムを昨年同様、3 教会リモートによる同時ライブ配信で開催しました。当番教会の新宿西教会、池の上教会、更生教会(天門教会との合同)3 か所がオンラインで相互に結ばれ、恵みの分かち合いができました。参加者は合計 47 名でした。

前回同様に半日アシュラムでありましたが、みことばに集中することができ、またオリエンテーション、開心の時、静聴の時、福音の時、充滿の時と一つ一つのセクションが充実していたので、大変恵みの多いアシュラムでした。

今回もオンラインライブ同時配信の準備にあたっては山崎製パンの技術援助を頂き、各会場には多くの技術スタッフがスムーズに運営サポートしてくださいました。

オリエンテーションは飯島延浩兄にお願いしコロナ・オミクロン対策の在り方、アシュラムの心得、分かち合いの注意点など事細かく要点をまとめて語っていただきました。

開心の時は池の上教会の千代崎備道先生がゼカリヤ書 1 章 3 節「それゆえ、わたしに帰れ、そうすれば、わたしもあなたがたに帰ろうと、万軍の主は仰せられる」から導いてくださり、会衆から多くのニードが発表されました。

静聴の時は新宿西教会の深谷春男先生が担当、出エジプト記 33 章 14 節から示され、「わが臨在汝と共に行く」(文語訳)、絶望的な状況にあっても「御顔を訪ね求める」ことを心に刻み付ける。ホーリネス弾圧に際しても「主の臨在」は揺るぐことがなかった、と語られました。

福音の時は更生教会の山口紀子先生でした。「戸の外に立って叩き、共に食事をして下さるキリスト」(ヨハネ黙示録 3:20 口語訳) から、キリストは私たちが求めている先から私たちに恵みを与えてくださる方で、キリストが来て私たちの心の扉を開いてくださる、と。

また、そこから星野富弘さんのエピソードをお話しくださしました。星野さんは動かす事のできる場所は口だけです。筆をくわえ、心に響く絵を描いておられます。信仰に至る過程を

話されました。大怪我をされ、手術前の問診の時、何か信仰をお持ちですか?との項目の回答に、キリスト教と言ってしまってから、毎週訪ねてくる牧師から勧められた聖書箇所を開くとその言葉に心を打たれたそうです。神様は思いもかけない方向から、また思いもよらない方法で彼に接してくださいました。

充滿の時は貴村かたる先生と横山義孝先生が導いてくださいました。日本アシュラムの歌、三本指の挨拶、横山先生のショートメッセージそして恵みの分かち合いを 1 人 30 秒で全員が発表し、3 教会の集合写真撮影後、時間通りアシュラムを終了することができました。

山口紀子先生の福音の時の説教を聞いて新宿西教会教会員、古澤佑一兄が感じたことを書いてくださいました。

アシュラムでは静聴の時、福音の時、充滿の時に聖書の話が語られます。

そこで福音の時に、「①聞かれる祈りがあります。②待ちなさい、と言われる祈りがあります。③聞かれない祈りがあります」という話がありました。

聖書の箇所を思い出しました。「わたしたちが何事でも神のみ旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるといことです」(ヨハネ第 1、5 章 14 節)

「あなたがたは、求めないから得られないのだ。求めても与えられないのは、快樂のため使おうとして、悪い求め方をするからだ」(ヤコブ 4 章 2~3 節)

福音の時の、聖書の解き明かしをしてくださった方が話されたこととニュアンスが異なるかもしれないかもしれませんが、望みや願いがかなえられない祈りは、自分の罪が示され、自分を変えられることだと感じました。神はいろいろな事を通して、悔い改めに導いてくださるのだと思いました。



年頭アシュラムに参加して

1月27日(木)~29日(土)アシュラムセンター主催

事務局 日本基督教団 天門教会 牧師 貴村かたる

私は2日目の奨励のご用を仰せつかり、オンラインライブ配信に参加させていただきました。

開会礼拝より榎本恵師による、主題「来てごらんさい」(ヨハネ1章39節)で御言の饗宴に与りました。

会場の琵琶湖ホテルより大型モニターに映し出され、会場、オンラインともに臨場感がある中、不思議に距離感もなく参加する恵みをいただきました。

早天祈禱会①と②は齋藤篤先生の力強いメッセージ。

「ローズゲン」の日毎の糧より、湧き出る泉のように聖霊の動きを描写できるよう力強く御言を語ってくださいました。各ファミリー(5名)のZOOMでの交わりは、回数を重ねる毎にパソコン画面に映し出される初対面のお顔に表情も和み、心開かれ語り合い、主にある出会いに至福の嬉しさが湧き出ました、これこそが「百聞は一見にしかず」のコロナ禍の醍醐味。祈りの有志達の誕生となりました。



日本アシュラムの五大原則

1. キリストへの明け渡しと服従
2. 御言葉への静聴と立証
3. 聖霊の導きと充滿
4. 教会への奉仕と伝道
5. 神の国の体験と献身

*詳しくは「連盟 60 周年記念誌」または「アシュラムの原則と実際」事務局に問い合わせくださいーをお読みください。さればアシュラムについてご理解いただけます。

2日目の全体協議会の中で、榎本恵師は、2022年度の主幹牧師の夢とビジョンを語られ、アシュラムセンター15周年の素晴らしい成長を見事に続けている、その秘訣を学び見ることができました。

恵師は、日本クリスチャン・アシュラム連盟と協力して、アシュラム運動を絶やさず広げることを願っておられる旨を語ってくださいました。小さな私も先達より継承されたアシュラム運動の発展を担う者となさせたまえと祈りました。

アシュラム連盟ホームページ開設

日本クリスチャン・アシュラム連盟のホームページが開設され公開されました。今やネット時代、多くのことがweb上に掲載され、その内容を表すことで多くの人々に働きを知っていただけるようになります。

このホームページにより、コロナ禍が起因となって人々の心が不安で渦巻き、混乱している社会の中で、アシュラムの働きを通して御言葉が働いてくださり、福音が多くの人々に伝わることを願っています。

「人間から出たものなら自滅するだろう。しかし、神から出たものなら、あの人たちを滅ぼすことはできません」とガマリエルは言いました。神から出た器(日本アシュラム)として、全地の隅々まで福音を広げていくアシュラム運動となりますようお祈りください。

なお、アシュラム誌第1号(1972年9月1日発刊)より第206号(2022年1月1日)までの全巻を総覧できるよう掲載しています。「日本アシュラム」で検索してください。



編集後記

皆さんからの記事を読みますと、コロナ感染拡大の中にあっても、工夫してアシュラムの集会を継続してくださっている様子がよく分かります。担当者の方たちの努力を心から感謝いたします。コロナの先行きを見通すことは全くできませんが、今年こそ各地のアシュラムの開催が実現するようにと切に祈ります。

会場で顔と顔を合わせて、聖書のみ言葉によって交わりが深められることを期待します。困難の中にあっても、神様が最善をなしてくださると信じて前進していきましょう。(岡山敦彦)

事務局より

日本クリスチャン・アシュラム連盟事務局として二年目になりました。事務局としての主な業務内容は次の通りです。

各地アシュラム開催の連絡確認、お送りいただくご献金の管理、支出の管理。年間決算報告(会計収支報告書)、アシュラム誌の年四回発送手続き。発送ラベル作成・封筒作成、郵便口座献金受領確認。領収証発行。名簿住所録データ入力管理、ホームページ(日本アシュラム)の作業。関東地区アシュラム委員会開催の連絡、会議準備。委員との連絡、城北アシュラム委員会の連絡。多くのことを天門教会の牧会とともに働いております。お祈りください。

アシュラム予告

- 第58回関東アシュラム(予定)
日時・9月19日(月)~21日(水)
場所・千葉県市川市 山崎製パン総合クリエーションセンター(予定)
助言者・島隆三師
- 九州アシュラム(予定)
日時・9月18日(日)~19日(月)
場所・福岡県糸島市
- その他、コロナ禍ゆえに未定のアシュラムが多く、決定次第お知らせいたします。